

同 南三十一度 〇星を、其の北隣に左隣との二星を取消す

同 南三十四度 〇星の名を改む

同 南三十五度 赤經八時三十七分、南緯三十五度二分に五等星を置く

同 南四十六度 〇星の左(四等)と北(五等)にある二星を取消す

同 南四十八度 〇星の左及び下にある五等星六個を取消す

同 北二十六度 〇星の名を改む

同 南十六度 〇星をニミリだけ右下に移す

同 南二十六度 〇星及び〇の星名を共に及び改む

同 南五十六度 〇星の左下隣の五等星を取消す

同 南五十九度 〇星を取り消す

同 北五十五度 星雲M97を左にニミリだけ移す

同 北十三度 〇星を取り消す

同 南十五度 〇星の名は CRATER なり

同 南三十三度 〇星をニミリ半だけ北方に移す

同 南五十八度 〇星の名を改む

同 北五十六度 〇星をニミリだけ北方に移す

同 北五十五度 〇星の固有名を *Mikar* を改む

同 北四十四度 〇星の名は CANES VENATICI

同 北三十八度 〇星をニミリだけ左方に移す

同 北三十九度 〇星の名をけつる

同 北三十七度 〇星の左上にある微星を〇星とす

同 北三十二度 〇星の名を改む

同 北二十八度 〇星をニミリだけ左上に移す

同 北二十五度 〇星をニミリだけ左上に移す

同 北三度 星團M5をニミリ半だけ左下に移す

XVIからXXVII迄

同 南四度 〇星をニミリだけ北方に移す

同 南二十四度 〇星をニミリだけ右下に移す

同 南四十九度 〇星の左下隣の四等星を〇星とす

同 北三十七度 〇星をニミリだけ右上に移す

同 北三十二度 星雲M5を五ミリだけ右に移す

同 南三度 〇星の名を OPHUCHUS に改む

同 北八度 〇星をニミリだけ上に移す

同 南四十九度 〇星の名を改む

同 北三十七度 〇星をニミリ半だけ右上に移す

同 北三十六度 〇星をニミリだけ南方に移す

同 北二十六度 新星1872を1870と改め、位置を四ミリだけ左に移す

同 北二十四度 〇星の名を10と改む

同 北二十四度 〇星をニミリだけ左に移す

同 北二十二度 星團M27をニミリだけ左下に移す

同 北十八度 〇星をニミリ半だけ南方に移す

同 南三十四度 〇星の名を SAGITTARIUS を改む

同 南三十九度 〇星をニミリだけ左に移す

同 南四十五度 〇星をニミリだけ左に移す

同 北四十五度 〇星の固有名を *Deneb* を改む

同 北三十三度 〇星の名を VULPECULA を改む

同 北十二度 〇星をニミリだけ右上に移す

同 南三度 〇星の名をニミリだけ右に移す

同 南三十四度 〇星の右の無名の五等星を削る

同 南五十九度 〇星をニミリ半だけ右上に移す

同 南十六度 〇星の名を AQUARIUS を改む

同 北四十一度 〇星の名を ANDROMEDA を改む

以上

XIからXIII迄

XIIIからXIV迄

XVからXVII迄

XIからXIII迄

XIIIからXIV迄

問答欄

まへおき 前號に豫告して置きました通り、本號から新しい問答欄を作り、質問と共に解答なども募ることをします。応募者の名は匿名でも宜しいが、本誌編輯室には本名を知らせて貰ひたいものです。質問と解答と、共にこゝに投稿の出来るのは同好會員に限りません。

質問の部

(一)私は八倍の二吋望遠鏡を持つてゐるので御座いますが、土星の輪は見えませうか？ (T, K)

(二)私は學校の教師でありまして、生徒に宇宙の話をするのですが、ラプラスの星雲説は今でも教へて宜しいでせうか。御教示を願ひ上げます。(大阪の一會員)

(三)天界五月號の天空逍遙者と題しまして宛木先生の御講話中の十三頁の終りの海王星の位置を佛のルヴェリーと英のアダムスが理論的の計算によつて一千八百四十八年に豫言したと御座いますが、理科年表には次の様な表が御座いました。

天文(主テ天文學上ノ発見)	(Lycæriæ(佛))
1846年 海王星	発見者 Adams(英)
	Galle(獨)

御明示を願ひたく思ひます。(御影町の一會員)

新彗星たより

最近報(ナハリヒテン誌の觀測報 Beobachtungszirkular der Astronomische Nachrichten)によれば、本年の第一彗星はロシアのシメイヌ(Simein)天文台のシャイン(Schäin)氏が三月二十二日早朝に発見したもので、すぐ台長ベリヤフスキ(Beljawski)氏からキールに左の電報が送られた。

「彗星が急速の遊星か、シャイン発見、三月二十二日二時一二分シメイヌにて赤經十一時五十一分二十秒、赤緯北一度三十四分、十等半、毎日三十分づつ運動す」

ところが此電文に不明の個所があつたのでキール中央局では直ちにハムブルグ天文台へ電話をかけて彗星の搜索を依頼し、ハムブルグにては二十三日の夜果して之を見届けた。

しかるに此の彗星はスペイン國バルセローナ天文台のユマス・ソラー(Comas Solá)氏も右の事は知らないでゐて、二十三日夜に撮影した天體寫眞中に発見したといふ。

天文の講習會

京都帝國大學では、毎年の夏、諸教室を開放して諸學科の夏期講習會を行ふことになつてゐるが、今十四年度には同大學理學部の一部として左の講習會が催される。

學科目 「太陽系の天文學」
講師 理學部教授 山本一清氏
詳細は決定次第發表されるだらうし、わが「天界」にも記す筈。

船橋無線報時(午后九時)の修正

(本年四月の分)

四月	一	〇〇九秒
	二	〇〇一一
	三	〇〇〇〇
	四	〇〇〇七
	五	〇〇一二
	六	〇〇〇四
	七	〇〇〇一
	八	〇〇〇二
	九	〇〇〇九
	十	〇〇〇三
	十一	〇〇〇七
	十二	〇〇〇四
	十三	〇〇〇七
	十四	〇〇〇五
	十五	〇〇〇一
	十六	〇〇〇三
	十七	早〇〇〇
	十八	陸地混線
	十九	〇〇一二
	二十	早〇〇〇
	二十一	早〇〇〇九
	二十二	早〇〇〇二
	二十三	早〇〇〇一
	二十四	〇〇〇四
	二十五	〇〇〇一
	二十六	〇〇一九
	二十七	〇〇〇六
	二十八	早〇〇〇四
	二十九	早〇〇〇二
	三十	早〇〇〇二